

会 議 録

会 議 名	粕屋町総合計画審議会	
開 催 日 時	平成27年4月14日（火） 午前・午後 10時 00分から 午前・午後 11時 15分まで	
開 催 場 所	粕屋町役場 3階 31会議室	
出席者 氏名	委 員	【識見を有する者】 （会長）中島 邦彦、（副会長）宗像 優 【町農業委員会の委員】 八尋 新祐 【町の区域内の公共的団体の役員又は職員】 石川 順二、古家 昌和、伴 世津子、八尋 汕子 松山 正治、長 志摩子、篠原 隆盛 【公募等による町民】 小辻 美香、永里 暢教、中野 敏郎、上野 恵美
	職員・職氏名	【事 務 局】 経営政策課長 山本 浩、総合政策係長 野田 悠紀 総合政策係 木場 洋介、井上 賢一、國司田祐己
欠席委員（者）氏名	【町教育委員会の委員】 井上 和弘 【町の区域内の公共的団体の役員又は職員】 藤 弘幸	
会議の公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 <input type="checkbox"/> 全部非公開	
会議を公開しない理由		
傍聴人の数	0人	
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5次粕屋町総合計画基本構想（案）に関する意見募集の結果について ・ 第5次粕屋町総合計画基本構想（案） ・ 粕屋町総合計画ワークショップの概要 	

審議会等の内容

1. 開会

2. 会長あいさつ

(中島会長よりあいさつ)

3. 協議事項

○パブリックコメント実施結果について

(事務局から説明)

・質疑応答

会長 2の「実行のカギ」ですが、細かなテーマのところどこがやるのかが見えてくるということですか。

事務局 行政の役割や町民の方の役割がある程度わかるように基本計画をつくっていきたいと思っております。

委員 未来カフェに中学生、高校生はどのくらい参加したのでしょうか。中高生、大学生の取り込みの仕方はどのようになっているのですか。

事務局 募集対象は中学生以上としておりました。最後、休日に開催した際に中学生の参加がありました。積極的にまちづくりに取り組んでいる大学生の参加もありました。また、中学生対象のアンケート等を個別に実施しております。

会長 中学生のアンケートの意見も反映されているのですか。

事務局 資料をお渡ししているかと思いますが、中学生アンケートも計画に反映されています。

副会長 「若い人に関心をもってもらえるようにつくってほしい」というのがパブリックコメントのご意見で、それに対する回答の趣旨は「今後も引き続き若い人たちに関心をもってもらえる機会をつくります」ということだと思いますが、今の文章だと少しぼやけているような気がします。たとえば「若い世代をはじめ多くの方々にまちづくりに関心をよせていただく内容となるように」などとすると、質問者も納得するのではないのでしょうか。

会長 この回答はいつ頃公表されるのですか。

事務局 本日いただいたご意見を反映し、それから公表の手続きをさせていただきたいと思っております。

○第5次総合計画 基本構想(案)について

(事務局から説明)

・審議会及びパブリックコメント等でいただいたご意見を反映させた修正部分について説明。

・質疑応答

委員 前回の最後にまだ意見がある方は役場のほうへと言われましたが、その後まだ言いたいことがあったなど悶々としていました。しかし、私が直接事務局に行き話すとというのはちょっと違うかなという気がしましたし、やはり審議会の中で話すのが原則ではないかと思うのですが、そのことに関してはいかがですか。結局意見があったのですか。

事務局	パブリックコメントを通して意見を出された方は、いらっしやいました。
委員	審議会の中以外での話は、こちらにはわかりません。
事務局	そこで決まる訳ではなく、最終的には審議会にフィードバックがきますので。
委員	それがきちんとくるような形でないと審議会としておかしいと思います。
	もう1点、一番引っかけたのが「快適さ」という言葉です。事務局からのお話では、今までの10年は右肩上がりだったがこれからは右肩下がりになっていくので、心の豊かさであるとかそういうところを踏まえてということであったと思います。それがこの中にどう活かされているのかと前回から思っていました。快適さという言葉が何度も出てきて、私も快適な生活を送りたいなと思ったりもするのですが、今は涼しくするのではなく適温よりちょっと下げましょうという流れになってきていますので、他に良い言葉はないかなとずっと思っていました。渡辺京二という方が新聞記事の中で、質の良い生活をしなければならないと言われていました。じゃあ質の良い生活というのはどんなことかということ、風景が素敵であること。仲間内で話しができるということ。自分がやっている仕事でできるだけ良い物をつくることとあって、すごく良いなと思いました。最近偶然手に入ったのが「江戸に学ぶエコ生活術」という外国の方の本で、この本の元々のタイトルは「just enough」という言葉なのですが、快適さまではいかない部分ではないかという気がします。この辺のニュアンスをどう伝えたら良いのか。たしかに快適さも求めたいのだけれど、その一歩手前ぐらいで収まるような言葉がないだろうかというのが私の意見です。
会長	私のイメージとしては与えられた環境の中での快適さで、それを追求するという意味では良いのではないかと思います。これを一言でいうとなるとパッと浮かばないのですが、快適さがすべて浪費ということではないので、そうではない捉え方もあって良いのではと思います。
委員	ある方にとっては快適と感ずることも、違う人にとっては不快と感ずることもあります。個人の価値観は違うので、おおよそ快適だと思われるような施策が入ってくるのではないかと思います。
委員	「快適さ」はこれまで自然を壊してきました。自然と調和して快適さを求めるというのは、ちょっと矛盾が起こるのではないのでしょうか。それが上手くできるような施策を私たちでつくっていくということなのかもしれません。
事務局	今までの右肩上がりの時代での「快適」と、今から先の「快適」とは捉え方が変わってくると思います。今までは自然を犠牲にしても便利な世の中をつくらうというのが快適というイメージであったかもしれませんが、今後の快適というのはそういうことだけではなく、精神的なこと、感性的なところも含めた快適さになってくると思います。そういう意味合いも込めて快適という言葉を使わせていただきました。
会長	4ページの基本目標2の中に説明がありますが、こういうところを読まれて、委員の意見をもう少し反映されるような文章にするのか、あるいは快適という言葉を外すのか、他に良い言葉があればそれに変えるのかということになるかと思います。
委員	言葉の使い方というのは色々あるかと思いますが、快適というのは安全・安心等が含まれた表し方ではないかと思います。大きな内容を持ったことと私は解釈します。具体的に何を快適にするのかという項目等を付ければ詳しい説明になるかと思いますが、その辺はいかがですか。
委員	先を見据えると、快適というのはすべてが含まれていると思いますし、まちづくりの目標としての目安なので、それほど気になりません。快適になりたいというのはみんなが思っていることですので、それは良いのではないかと思います。パブリックコメント結果を今朝1時間ほどかかって読んだのですが、どれも同じように感じて、すごく堅い感じがしました。子どもや中学生に読んでもらうのであれば、ひとつでもいいのでやさしく回答できるような工夫をしていただければと思います。

主婦として見ても理解に苦しみました。これを中学生や高校生が最後まで読むかというと思いません。ひとつだけでも子どもがなるほどというような回答の仕方を考えていただければと思います。

委員 快適さには幅がありますので色々考えるところではありますが、とりあえずこんなものかなと思いました。あとは具体的に進めていく中で、一人ひとりに対してどういうものが快適なのかというところを考えていきたいと思えますし、基本的なところでは、今ある環境や生活を守りながら引き継いでいくというところではご理解いただけていると思えます。私はこの形であるとは中身をつめていけば良いのかなと思えます。

委員 アメリカ人はお湯を使うときに蛇口からすぐにお湯が出るようなシステムをつくります。常時お湯が循環しているような、いつでもお湯が出るようなシステムは快適だろうとは思えます。一方イギリスは結構不便でシャワーなどたっぷり使えませんが、それでも別にそういう生き方といいますか。生きていく中で依存しないで、なるべく自分で楽しみながらやっていける、そういう部分での快適さというのをみんなが求めていけるようになればと思います。

委員 快適さというのは、ここにもあるように立地を活かしたまちづくりということで、自然を大事にしながらかつ博多駅や天神に快適に行けるということなのかなと思っています。「just enough」など循環型社会になると、生き方や生活の仕方という形になるので、まちづくりのマスタープランとして出すには、それぞれの価値観があるためすごく出しにくいと思えます。この快適にというのは、まちづくりの中でのハードの快適さ、住みやすさ、ということかなと思えました。生き方、生活の仕方というところは、基本目標の1、3あたりで個別計画の中でみていく方向性なのかなと思えます。

会長 2ページの図についてそれぞれの考え方がありますが、これは一応このままで、個別のところでは各委員のご意見を反映しながらつくっていくということではよろしいですか。それでは、他にありませんか。

委員 2ページの「心かよいあう」は駕与丁公園とかけてあるということで、これは色々な部分につけていただきたいと思えます。せっかくこのようなテーマがあるので、10年間で色々なことをやっていただきたいという思いがあります。パブリックコメントやまちカフェ等と組んで「心かよいあう」行事を駕与丁公園を中心にやられると良いと思えます。

会長 その辺は各担当部署の施策の中に入れられるかという話になりますが、是非参考にさせていただきたいと思えます。

委員 基本目標3の「誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち」とありますが、「快適に」暮らせるから「幸せ」なのだと思いますので、ここの「幸せ」は必要ないという気がします。

委員 「安心」と「やすらぎ」は同じようなニュアンスなので「やすらぎ」を外した方が良いような気がします。

委員 私は「安心」「幸せ」「やすらぎ」は、それぞれ意味が違うと思えます。もうひとつ思ったのは、安心して産み育てられるという親目線の子育て環境もそうですが、子どもが安心して育つことができる「育ち」という視点もそこに入ると良いかなと思えました。

委員 5ページの基本目標3の1と5は一緒にしても良いと思えます。「誰もが健康で」と「誰もが心豊かに」と「誰もが」が2つになっていますので、心と身体を一緒に考えても良いかなと思えました。

委員 これはあえて分けてあると思えます。「誰もが健康で暮らせる」というと健康課などで、健康診断を受けて健康増進につなげる等具体的な反省が出やすいかなと思えます。「誰もが心豊かに」というと福祉になると思えますので、生活保護等の部分もあるかなと思えます。一緒にするとぼやける気がします。

事務局 ここは柱が立っていますが、これから基本計画の内容に入ってきますと、町が行

っている事務事業全部ひもづくイメージでタイトルをつくっています。1番の「誰もが健康で暮らせるまちづくり」は主に健康づくり課が実施している健康増進事業関係で、5番は社会保障制度のようにある程度国などで決まっている制度的なものが入ってくると思います。計画の進行管理では施策の中身が違うものは分けていたほうが今後管理しやすいということで、分けさせていただいております。

会長 4ページの基本目標3のほうはいかがですか。ここは耳触りが良いのでいいかなという気がします。

委員 基本目標1の「つながりと交流を深め」は、地域活動になるかと思いますが、基本目標3は福祉に欠けている子どもや一人暮らしの高齢者など存在が孤立している方により積極的に手を伸ばさなくてはいけないというところで、対象者が3に入ってくると思います。それこそ地域で活動される方たちが働きやすい、困った人たちがみつけられやすい、より手が伸ばしやすいということだと思います。

会長 すべてを活かすと「誰もが幸せに安心して暮らせるやすらぎのまち」になります。「誰もが幸せに暮らせるやすらぎのまち」のほうですっきりしますね。

事務局 「安心して」を外すということでしょうか。

委員 「安心して」を全部外しては。

事務局 大きな項目のほうに「安心して」を残すために1から5の「安心して」を外した経緯があります。

委員 「誰もが幸せに暮らせる安心とやすらぎのまち」ではどうでしょうか。

それと別件ですが、1ページのまちづくりの基本理念の注釈を赤字で入れるということでしたが、注釈は他のページでも出てくると思いますので、ページの一番下にもってくるなど統一したほうが見やすいと思います。赤字で入れるというのはとても良いと思います。

委員 私は「安心して」と「誰もが」は離したくないです。何か困ったときにはこの人に言えば良いという安心感ということで、福祉の中から離したくないという思いがあります。

委員 このままで良いのではないですか。

委員 「幸せ」はそれぞれが感じるもので、一人ひとり違うと思います。幸せは自分でつくるものであって、環境さえ整っていれば幸せは感じられると思います。町がそこまでする必要はないと思うのですが。

事務局 たしかに何をもって幸福と思うかというのは人それぞれだとは思いますが、「幸福度」についてアンケート調査の中でひとつの物差しとして上げてきた経緯がありますし、実際アンケート調査の中でも「安心」という言葉がキーワードとして出てきておりましたので、この言葉を活かしたいという思いで入れさせていただきました。

会長 それでは元のとおりということでお願いします。他にありませんか。

委員 5ページの基本目標3のところ、「誰もが健康で暮らせるまちづくり」は〇〇課、「子育て世代が明るく暮らせるまちづくり」は〇〇課など、それぞれ施策がしやすいように担当課別にすると言われましたが、1と5は関連しているのでひとつの言葉にして〇〇課と〇〇課がこれにかかわるというふうにすれば、横の課と横の課のつながりができてひとつの目標ができるのではないのでしょうか。課と課、部署と部署が横で話ができるような体系づくりが必要ではないかと思いました。

会長 縦割り社会に横串を通すということですね。

事務局 行政のあり方として、実際の運営の仕方の中で今後どう取り組んでいくかというのはあると思います。第4次の総合計画でも施策の下が36ぐらいに分かれておりますが、課をまたがっている部分もちろんあります。町としての姿を描くときに全部ひとつにすると見づらくなりますし、全部を細分化するのもかえってわかりにくくなるということで、ある程度方向が見えるような括りにしたのが今回の状態です。

委員 先ほどのお話では1番は何課、5番は何課と分かれていると言われたように思いましたので、今後そういうふうに進めていかれるのであればそれで良いと思います。

会長 他にございませんか。それでは修正点を確認させていただきます。注釈は下に集約するということ、「心かよいあう」というのを今後の施策に活かしてほしいということ、「快適さ」の意味も捉え方によって違うと思いますので、その辺も考慮いただきたいということ、5ページのところは横に連携を取れるように進めてほしいということ、以上でよろしいですか。

事務局 パブリックコメントの回答についてですが、文言的にもう少し柔らかく、「実施する」を「行います」のような形で、考慮できる部分はさせていただきたいと思いません。

会長 パブリックコメントの回答と第5次粕屋町総合計画基本構想（案）は、ここで承認いただいたということでもよろしいでしょうか。それでは、基本構想（案）を私のほうから町長へ答申させていただきます。今日はご協力ありがとうございました。それでは、事務局へお返しします。

4. 連絡事項

事務局 本日で基本構想（案）の審議を終えさえていただき、今後は5年間の基本計画の策定の内容に入っていきたいと思っておりますので、審議のほうをお願いいたします。基本構想（案）については、これまでの審議経過を踏まえて会長より答申書を提出していただくこととなります。また今後基本計画の策定を進める上で総合計画のワークショップの開催を予定しており、この審議会からも2名の委員に参加の申し込みをいただいております。それでは、ワークショップ自体の概要について担当より簡単に説明させていただきます。

○総合計画のワークショップについて
（事務局から説明）

○第6回 粕屋町総合計画審議会

日時：平成27年6月下旬（予定）

内容：基本計画（案）の策定状況等について

・日時については、確定次第早めにご連絡させていただきます。

委員 Face bookの中に「粕屋町」という名前があったので、せっかくなので町の面白い風景を投稿しようと思ったのですが、こちらからの情報は載せられませんでした。せっかく良いアイテムがあるので、住民のほうからも気軽に載せられるようにしてほしいと思います。

事務局 今後、町の情報発信も考えておりますので、その中でSNSの利用等考慮しながら進めていければと思っております。ありがとうございました。

5. 閉会